HONDA

本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１

K1:WJR2215
WJR2225

30YE8602
00X30-YE8-6020

Ⓢ Ⓨ (HC) 1000.2000.03

ホンダ 背負式動力噴霧機

WJR2210/WJR2215/WJR2225

取扱説明書

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

・本機を操作するときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた動力噴霧機で安全かつ能率的な作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。
本書はWJR2215を中心に説明してあります。
・保証書は良くお読みいただき、裏面の商品受領書サイン欄にご署名の上、大切に保管してください。

目次

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう‥4
安全ラベル ‥‥‥

定期手入れを行いましょう……35

やさしい点検・整備……36
エンジン　オイルの交換……36
エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃……38
点火プラグの清掃・調整……40
燃料タンクの清掃……41
燃料フィルタの清掃……42
燃料チューブの点検……43
冷却フィンの点検・清掃……43
スロットル　ワイヤの調整……44

長期間使用しないときの手入れ……46

故障のときは……48

主要諸元……50

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは誰にも本機を使用させないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 本機は農薬の噴霧散布または散水用として使用してください。定められた用途以外に使うと、重大な薬害事故を起こしたり、本機を破損する危険があります。
- 本機の改造は行わないでください。故障の原因となるばかりでなく思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- また次のような人も薬剤の散布をしたり、手伝ったりしないでください。

  ・肝臓や腎臓に障害のある人　・特異体質の人
  ・薬物に敏感な人　・病弱、病後の人　・ケガをしている人
  ・生理時の女性　・妊娠中の人

  薬剤の影響を受け、健康を害するおそれがあります。
- 日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。また作業中に故障するとタンク内に残った薬剤で薬害を引き起こすことがあります。

警告

- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して所定のレベルを超えないように補給し、燃料給油キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 建物の中、ビニール　ハウスの中、壁に囲まれた所など換気の悪い場所ではエンジンを運転しないでください。酸素不足や有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- 急傾斜地では本機を使用しないでください。急傾斜地はすべりやすく、転倒するおそれがあります。

●農薬の取扱い

- 農薬の散布作業や作業を補助する人は、農薬を吸入したり、直接皮膚に触れないように次の保護具を着用してください。
  - ・防水性のある帽子、長袖、長ズボン
  - ・ゴム手袋、ゴム長靴
  - ・保護メガネ、防除用マスク

  農薬が皮膚に付いたり、吸入すると中毒を起こすことがあります。
- 農薬を散布するほ場はあらかじめ防除計画をたて、前もって除草作業などを済ませ、防除直後のほ場に入らないようにしてください。薬剤により健康を害するおそれがあります。

警告

- 同じ人が長時間あるいは連日散布作業を行わないでください。作業は適度に休憩をとりながら行ってください。疲れた状態では、健康に悪影響を受けやすくなります。
- 薬剤の散布は日中の暑い時や、風の強い時を避けてください。また人通りのある場所、時間(子供の登下校時など)に散布することを避けてください。日差しの強い時に散布作業を行うと、散布した薬液が濃縮されて、薬害を生じるおそれがあります。風の強い時は、薬剤が流され散布地以外への汚染や、人、家畜、養蜂、蚕、水生動物などに薬害を生じる事があります。
- 使用する薬剤のラベル、説明書、注意事項を良く読んで、正しく使用してください。万一に備え薬剤の毒性や応急処置の方法を確認しておいてください。注意事項などを守らないと、重大な薬害事故を引き起こす原因になります。
- 散布作業中は飲酒、飲食、喫煙をしないでください。休憩時や作業の後に食事、喫煙をする場合は、必ず石けんで手や顔を良く洗い、うがいをしてからにしてください。薬剤が体内に入り健康に悪影響を与えます。
- 飲食物を農薬や本機と同じ容器で運搬したり保管しないでください。飲食物が汚染され、薬害事故を引き起こします。
- 残った薬剤は、密封、密栓し、食品や飼料とは区別してカギのかかる農薬保管箱に保管してください。保管が不完全だと重大な薬害事故を引き起こします。

警告

- 使用した機具は、子供や家畜の出入りできない、鍵のかかる場所に保管してください。
  保管が不完全だと子供が触れたり家畜がなめたりして薬害を引き起こします。
- 薬剤の中で、火気厳禁の表示がある物(硫黄、乳剤、油剤など)を火気(たき火、タバコの火など)の近くで使用しないでください。
  保管場所も火の気のない、涼しい場所を選んでください。火災事故の原因になります。
- 使用した機具は良く洗浄してください。洗浄に使った水は、薬害の生じない、自分の管理する非農耕地にすててください。
  機具の洗浄が不完全だと、次に使用するとき別種の薬剤を使用すると、機具に残った薬剤が反応し思わぬ薬害の原因になります。
- 薬剤の空き袋や段ボール箱、プラスティック容器は安全な場所で焼却処分してください。焼却するとき煙を吸い込まないよう注意してください。薬害を引き起こす原因になります。
- 作業が終了したら、入浴して、石けんで体を良く洗ってください。着用した衣服類は全部取り替え洗濯してください。作業に使った衣服を翌日また着用すると、薬剤の影響を受けて体調が悪くなることがあります。

●運転中

- 運転中や停止直後のエンジンは高温になっています。人や動物を近づけないでください。触れるとやけどします。
- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買上げ販売店にご連絡ください。

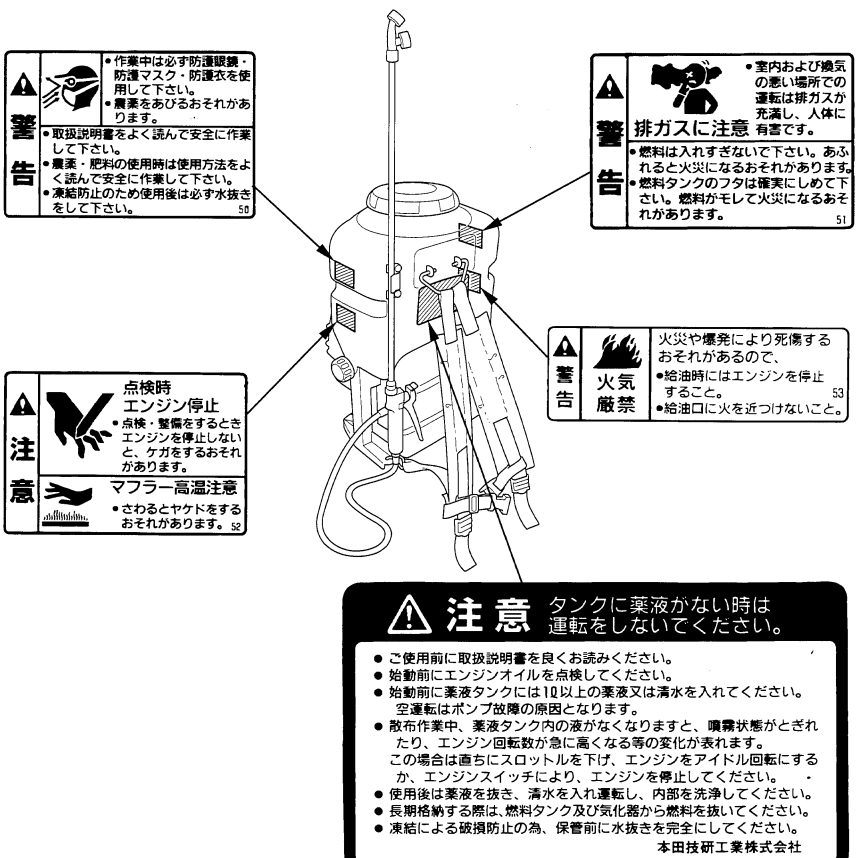
警告

●作業が終ったら

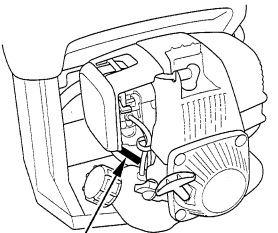
- 点検･整備や清掃するときは必ずエンジンを停止してください。
  また誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを“停止”の位置にし、プラグ　キャップを取外してください。
  予期しないときにエンジンが始動してケガをするおそれがあります。

●安全ラベル

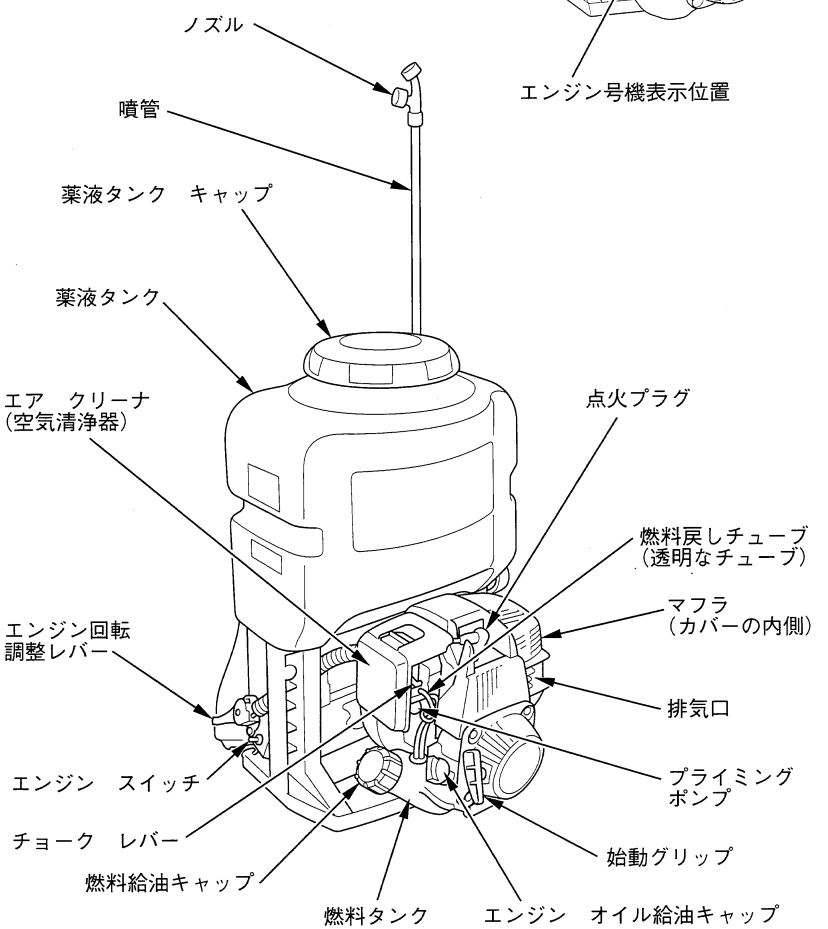
本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルははっきりと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。
安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

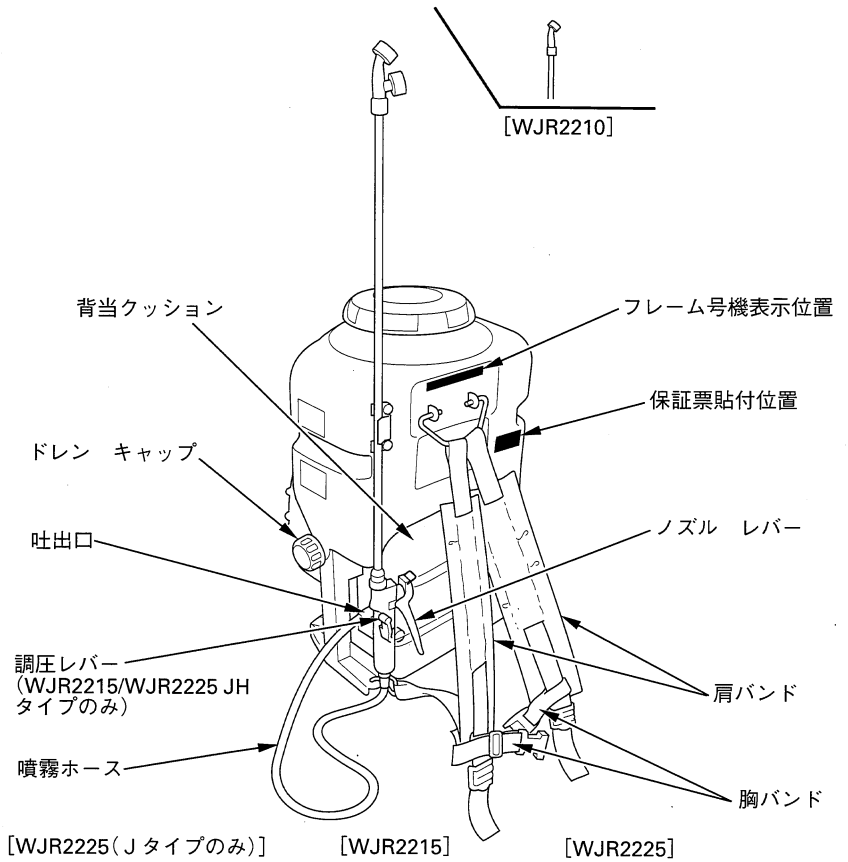


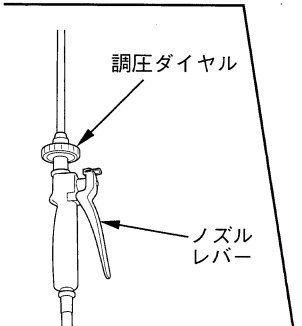
各部の名称と取扱いをおぼえましょう

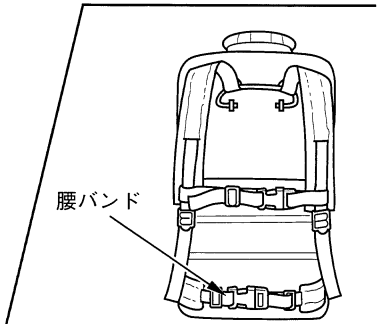


エンジン号機表示位置



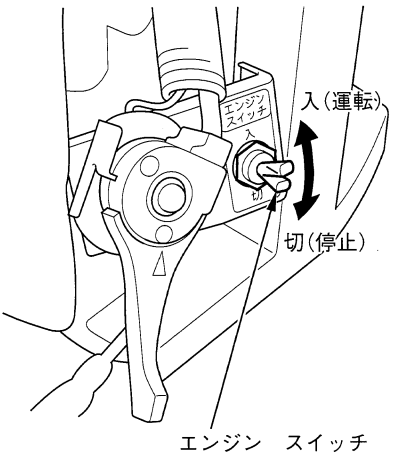

[WJR2210]
背当クッション
フレーム号機表示位置
保証票貼付位置
ドレン　キャップ
吐出口
ノズル　レバー
調圧レバー
(WJR2215/WJR2225 JH
タイプのみ)
肩バンド
噴霧ホース
胸バンド
[WJR2225(Jタイプのみ)]
[WJR2215]
[WJR2225]


調圧ダイヤル
ノズル
レバー


腰バンド

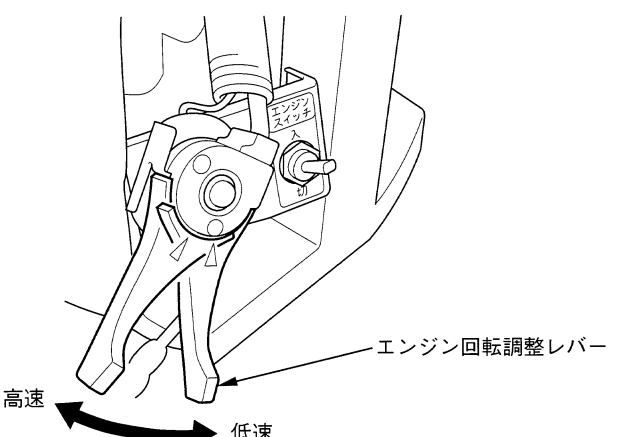
エンジン　スイッチ

エンジンを運転、停止させるときに操作します。



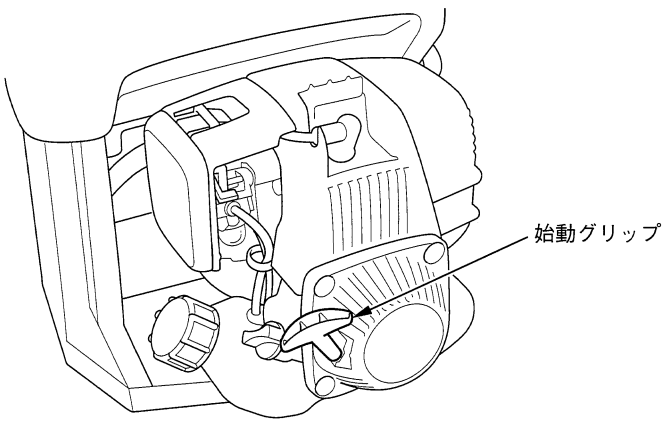
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。



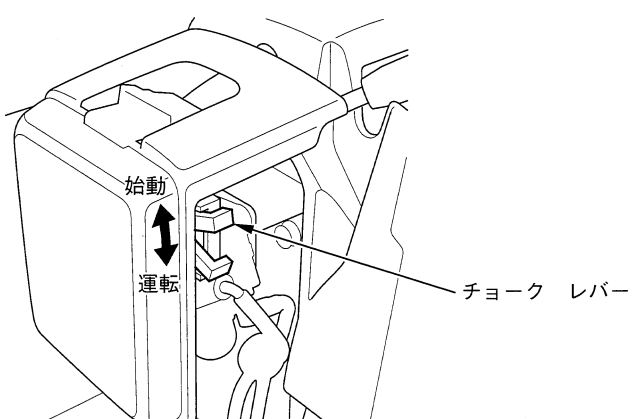
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



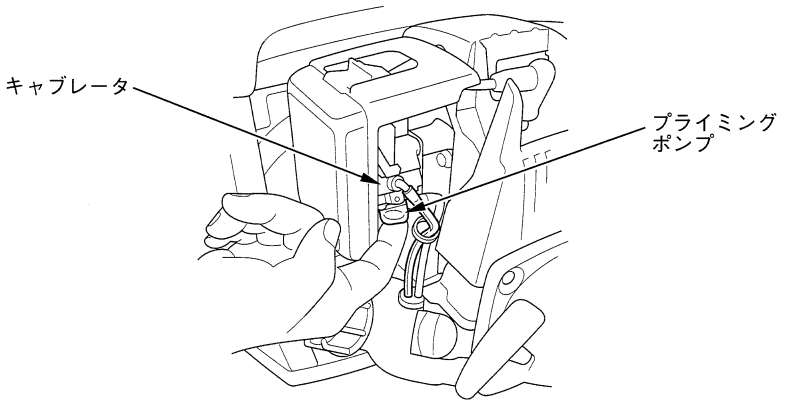
チョーク　レバー

始動時にエンジンが冷えている場合にチョーク　レバーを**“始動”**の位置にします。



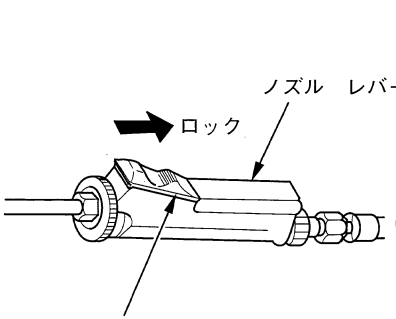
プライミング　ポンプ

エンジンを始動するときに操作します。数回押すことによって、キャブレータ内に燃料を送り込みます。燃料戻しチューブ(透明なチューブ)内に燃料の流れが確認できれば、キャブレータ内に適量の燃料が蓄えられています。

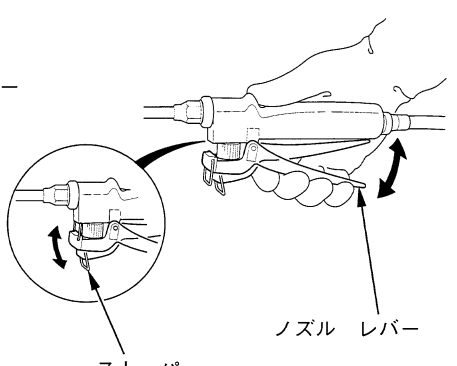


ノズル　レバー

ノズル　レバーを握ると噴霧が始まり、離すと止まります。ストッパまたはスライド　スイッチを操作することによって、ノズル　レバーを握ることなく、噴霧状態を保持することができます。



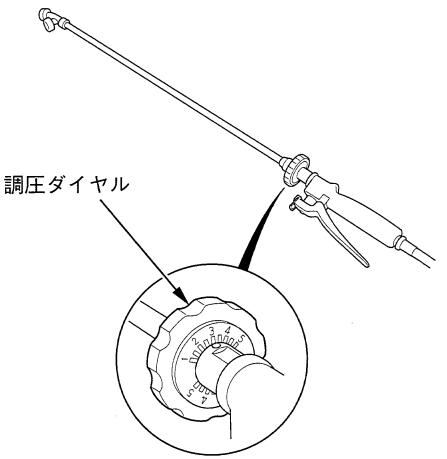
[WJR2210]



[WJR2215/WJR2225]

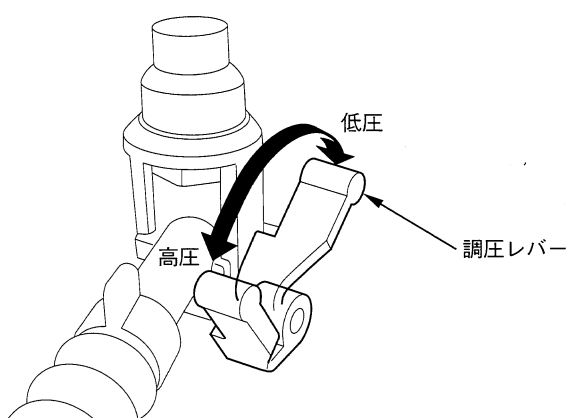
調圧ダイヤル（WJR2225 J タイプのみ）

噴霧圧力／噴霧量を調整するときに操作します。調圧ダイヤルを回転させて圧力を調整します。



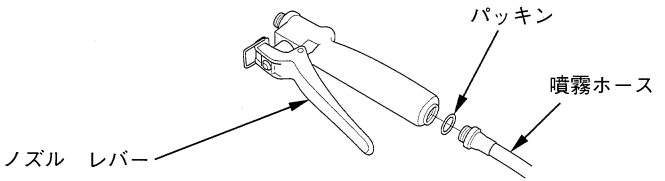
調圧レバー（WJR2215/WJR2225 JHタイプのみ）

噴霧圧力／噴霧量を調整するときに操作します。調圧レバーを操作することにより、圧力を 2 段階に調整できます。

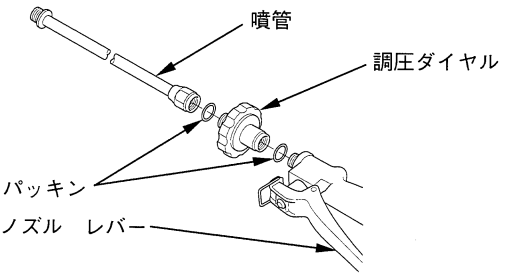


ノズルおよび噴管の組立て

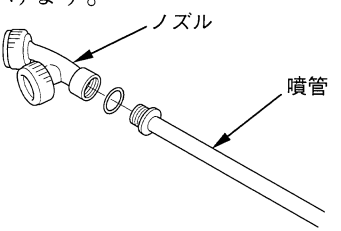
1. ノズル　レバーに噴霧ホースを取付けます。



2. ノズル　レバーに調圧ダイヤル(WJR2225 Jタイプのみ)および噴管を取付けます。



3. 噴管にノズルを取付けます。



取扱いのポイント

- パッキンが切れていたり、なくなったりしていないかを確認し、確実に取付けてください。
- 各接続部はしっかり締付けてください。締付けがゆるいと薬液が吹き出すことがあります。
- 噴霧ホースのポンプへの取付けは、まず手でねじ込み、次にプライヤなどで1／8回転回して確実に締付けてください。

エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップを外してください。

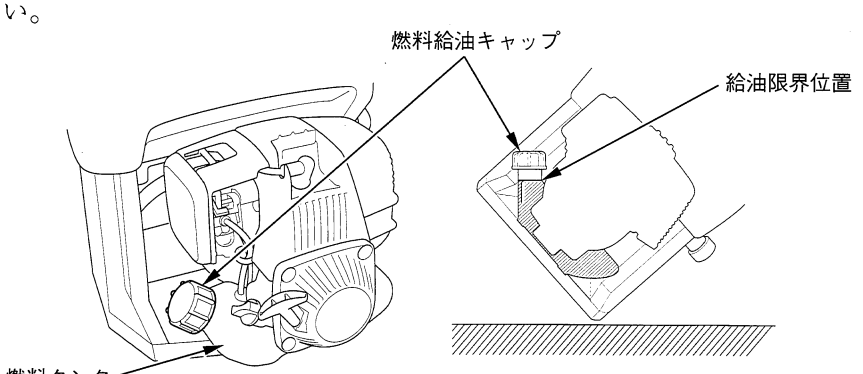
ガソリンの点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
・エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれた場合は布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
・燃料は注入口の口元まで入れず、給油限界位置を越えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

点　検

燃料タンクの外側から液面の位置を確認し、ガソリンがあるか点検します。少ないときには図の給油限界位置を越えないように補給してください。



補　給

使用ガソリン：自動車用ガソリン

- タンク容量：　0.45ℓ
- 燃料給油キャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部の気圧差と取除いてから、キャップを取外します。一気にキャップを取外すと、燃料がふき出すおそれがあります。
- 給油限界位置を越えないように補給します。
- 補給後、給油キャップを完全に締付けてください。また、給油キャップ取付け部より燃料漏れがないことを確認してください。

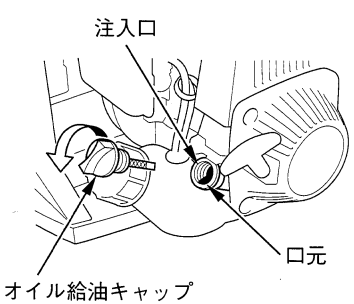
取扱いのポイント

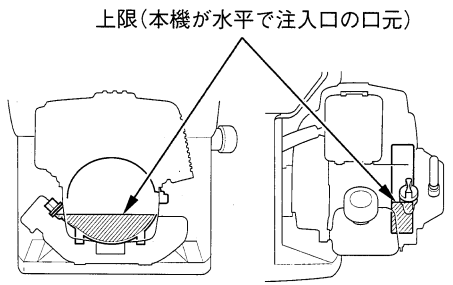
ガソリンにエンジン　オイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。本機に混合ガソリンを使用すると始動不良、出力低下、燃料系のつまりの原因となります。

エンジン　オイルの点検

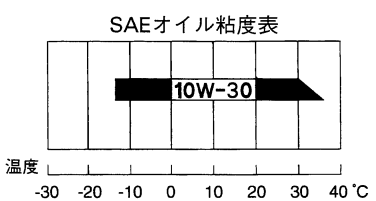
本機を水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。不足している場合は、新しいオイルを口元まで補給してください。

●汚れや変色の著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は、36頁参照)





推奨オイル：4サイクル　ガソリン
エンジン　オイル
ホンダ純正ウルトラU汎用
(SAE 10W-30)
またはAPI分類SE、SF、
SG級相当のSAE 10W-30オイルをご使用ください。



エンジン　オイル量：0.10ℓ

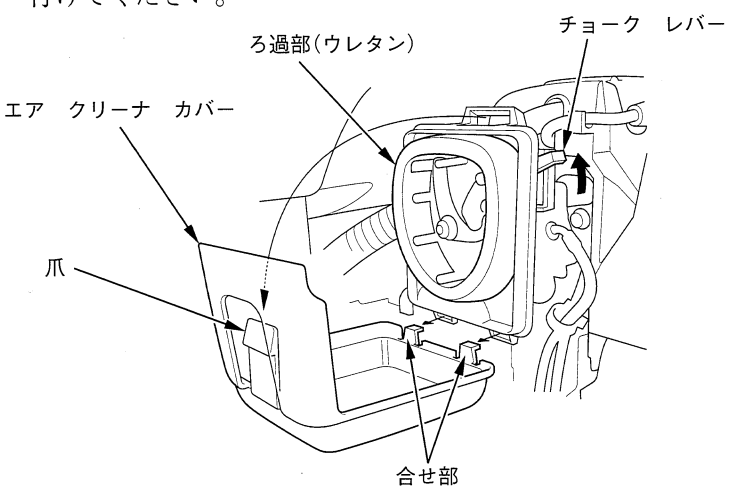
取扱いのポイント

- 本機を連続運転する場合、10時間運転毎にエンジン　オイルの点検、補給を行ってください。
- エンジン　オイルの補給はオイル容量が小さいため、小量に分け注入してください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の点検

エア　クリーナ　カバーを外して、ろ過部(ウレタン)が汚れていないか点検します。

1. チョーク　レバーを上げます。
2. エア　クリーナ　カバーの上部の爪を押しながら外し、下部の合せ部を外してエア　クリーナ　カバーを取外します。
3. ろ過部(ウレタン)の汚れを点検します。
   汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。(38頁参照)
4. エア　クリーナ　カバーを取付けます。
   取付けは、下部の2か所の合せ部を組付けた後、上部の爪を確実に組付けてください。

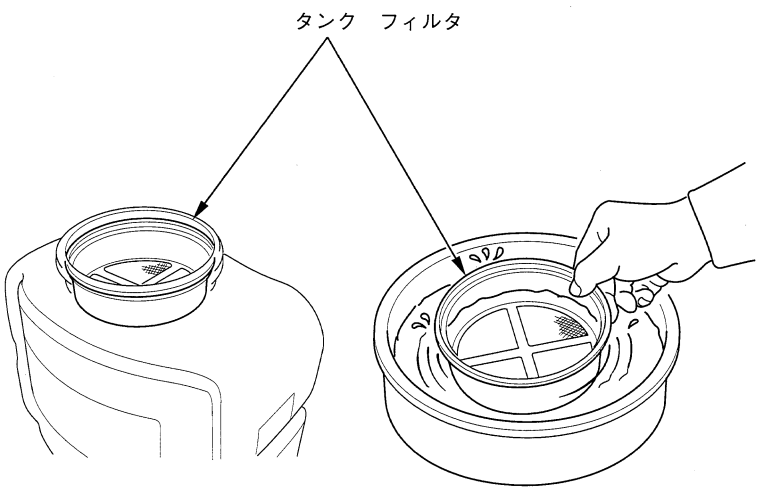


取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

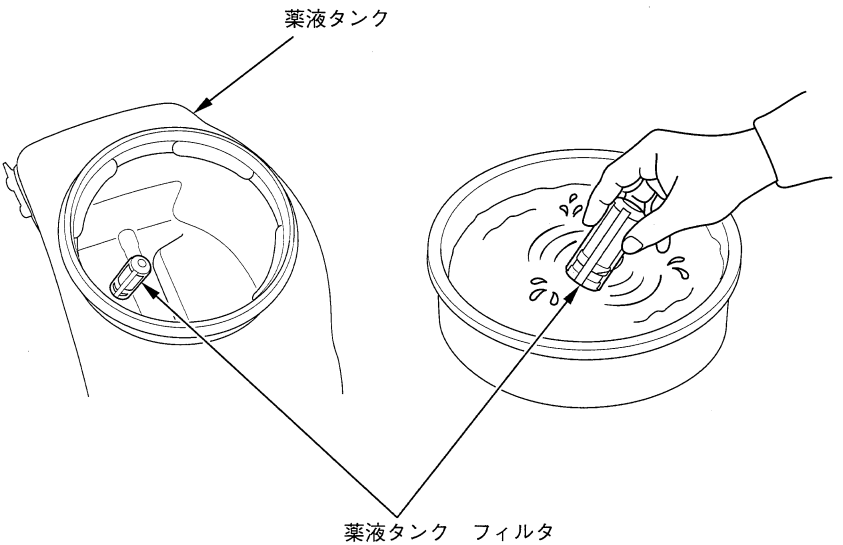
タンク　フィルタの点検･清掃

薬液タンク　キャップを外して、タンク　フィルタが汚れていないか点検します。
汚れている場合は、タンク　フィルタを外して、清水でゆすぎ清掃してください。



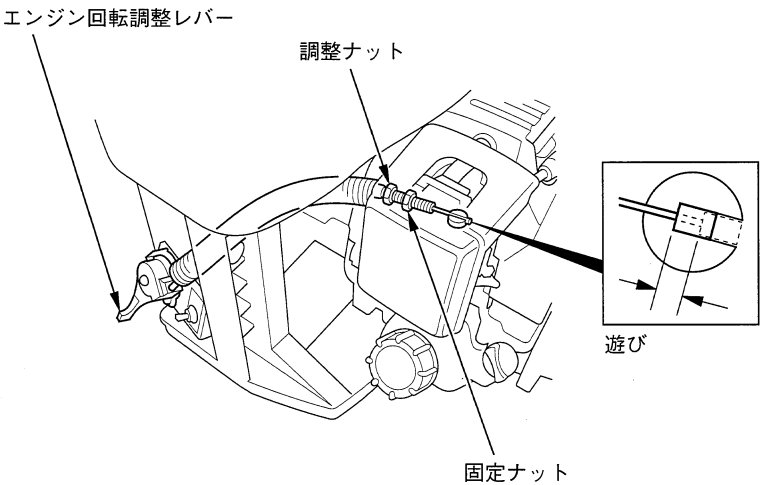
薬液タンク　フィルタの点検･清掃

薬液タンク　キャップとタンク　フィルタを外して、薬液タンク　フィルタが汚れていないか目視で点検します。
汚れている場合は、薬液タンク　フィルタを外して、清水でゆすぎ清掃してください。



スロットル　ワイヤの点検

エア　クリーナ　カバーを外して、エンジン回転調整レバーを少し動かし、スロットル　ワイヤの遊びを点検します。規定値外の場合は、遊びを調整してください。(カバーの取外しは20頁、遊びの調整は45頁参照)



取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

薬液の入れかた

⚠警告

- 薬液の注入後、薬液タンク　キャップをしっかり締めてください。薬液タンクは、必要以上に傾けたり、倒したりしないでください。薬液が吹き出すことがあります。
- ノズルを人に向けないでください。農薬などを浴びると、重大な薬害事故を引き起こします。

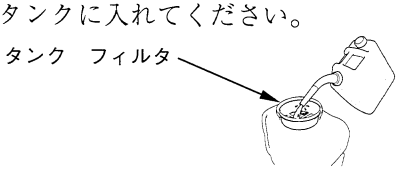
⚠注意

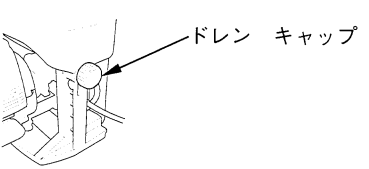
- 薬液タンクに農薬を入れるときは、平坦で安定した場所で、必ずエンジンを停止して行ってください。本機が倒れて薬液がこぼれたり、思わぬ時に薬液が噴出するおそれがあります。
- 水和剤を使用する場合は、あらかじめバケツなどの容器で、薬剤メーカーの取扱説明にしたがい、決められた倍率に希釈し、薬剤を混ぜたうえで、タンクに入れてください。また、水和剤は沈殿しやすいため、早めに散布を完了してください。調合倍率が間違っていると、栽培作物に薬害を生じることがあります。
  良く混合ぜずにタンクに入れると、散布濃度が不均一になり、薬害を生じる原因になります。

取扱いのポイント

- 薬液は必ず薬剤メーカーの取扱説明にしたがい、決められた倍率に調合し、よくかきまぜて溶かしてから薬液タンクに入れてください。
- 薬液タンクに薬液を入れるときは、必ずタンク　フィルタを通して入れてください。
  薬液に異物、ゴミが混ざるとポンプやノズルの故障の原因となります。

ドレン　キャップがしっかり締まっていることを確認してから、薬液をタンクに入れてください。





エンジンのかけかた

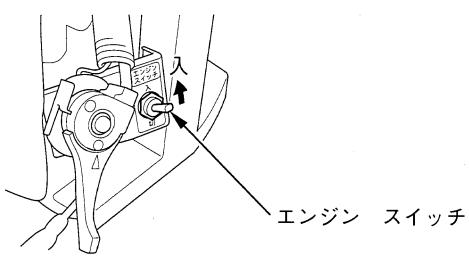
⚠警告

排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

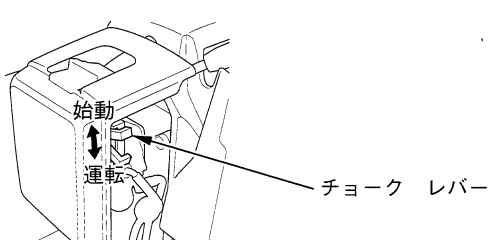
取扱いのポイント

空運転はしないでください。タンクには1 ℓ以上液を入れてください。
空運転を避けるため、噴霧中、ノズルから液が出なくなったらすぐに、エンジン回転を低速にし、アイドリングにするか、エンジンを停止してください。
タンク内の薬液が1 ℓ以下では、ポンプが空気を吸い、作業できなくなります。空運転を続けると、ポンプが破損することがあります。

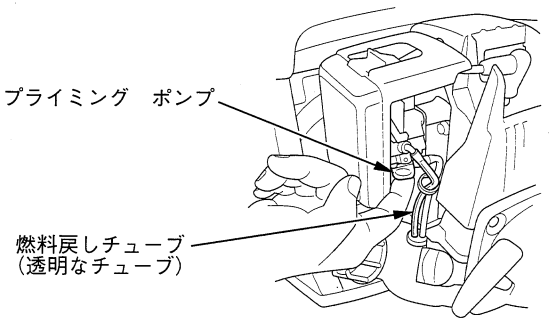
1. エンジン　スイッチを“入”の位置にします。



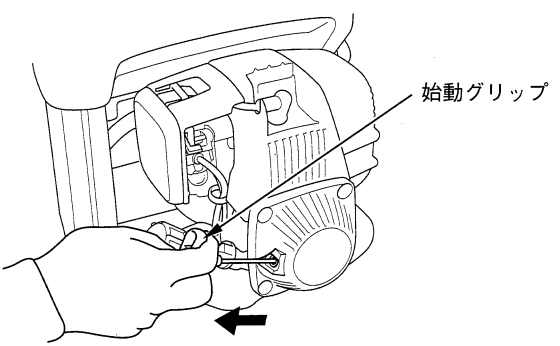
2. 寒いときや、エンジンが冷えているときは、チョーク　レバーを始動の位置に合わせます。エンジンが暖まっているときはチョーク　レバーを下げた位置(運転)にします。



3. 燃料戻しチューブ(透明なチューブ)の内側でガソリンが移動するまで、プライミング　ポンプを押します。



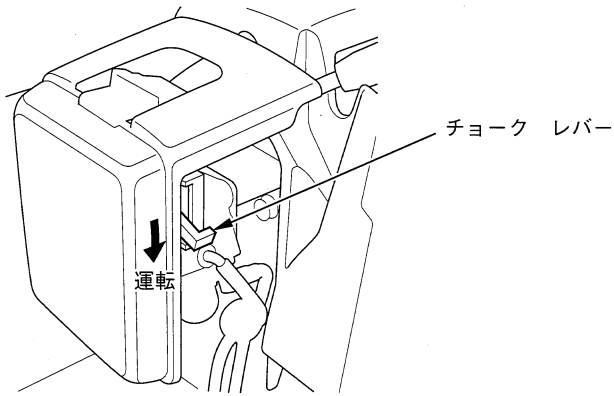
4. 本機をしっかり押さえ、始動グリップを勢いよく引きます。



取扱いのポイント

- 始動グリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- 始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

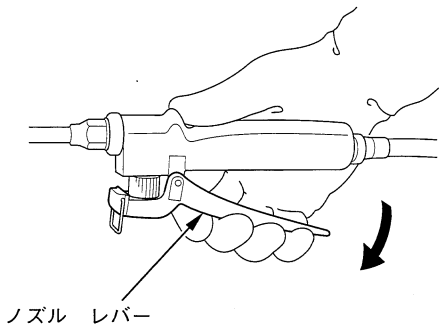
5. チョーク　レバーを**始動**にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に**運転**の方向に戻します。



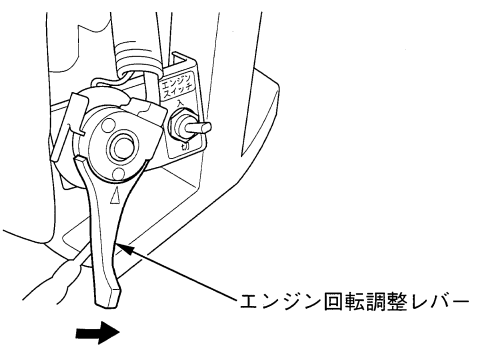
6. 2 ～ 3 分間暖機運転を行ってください。

エンジンのとめかた

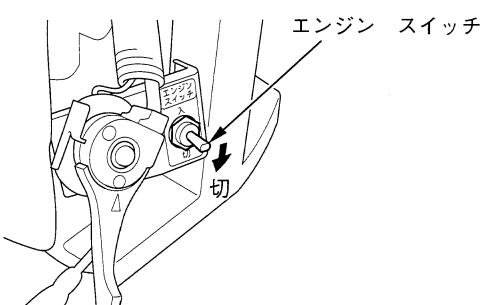
1. ノズル　レバーをはなします。



2. エンジン回転調整レバーでエンジン回転を最低速にします。



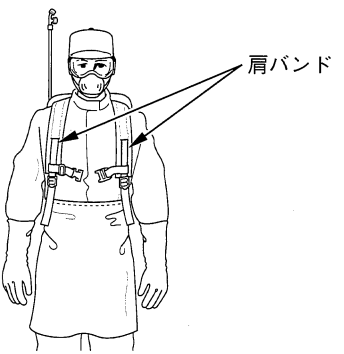
3. エンジン　スイッチを“切”の位置にします。



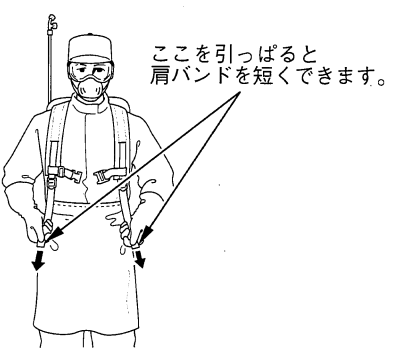
運転操作のしかた

1. エンジンを始動します。（エンジンの始動方法は25頁参照）
2. 本機を背負います。

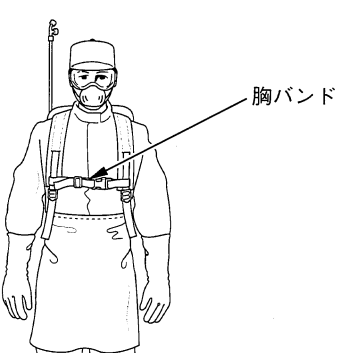
●左右の肩バンドに腕を通して本機を背負います。



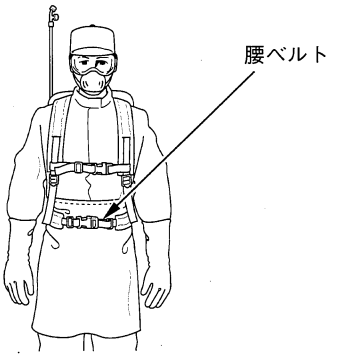
●本機が背中にぴったりつくように肩バンドの長さを調節します。



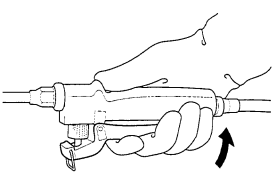
●胸バンドの接続部分を締結します。胸バンドを上下して窮屈に感じない位置にずらします。さらに、本機が背中にぴったりつくように胸バンドの長さを調節します。

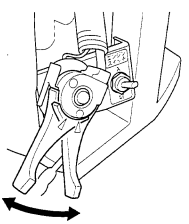


●[WJR2225のみ]
腰ベルトの接続部分を締結します。本機の重量が肩と腰に平均にかかるように腰ベルトを腰骨あたりにかけ、長さを調節します。



3. ノズル　レバーを握り、エンジン回転調整レバーを操作して、噴霧状態を見ながら圧力を調節します。



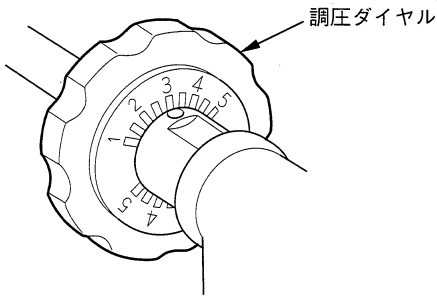


取扱いのポイント

- エンジンは全開で6,500 rpmになるように、エンジン回転調整レバーがストッパーで調整されてます。ストッパーの位置をかえて無理な高速回転をさせないでください。無理な高速回転はポンプの効率を低下させ、エンジンとポンプに悪影響をあたえます。
- 本機には、遠心クラッチが採用されていますので、エンジンが低速回転中はポンプが回りません。クラッチのすべっている回転域でのご使用はお避けください。クラッチが破損することがあります。

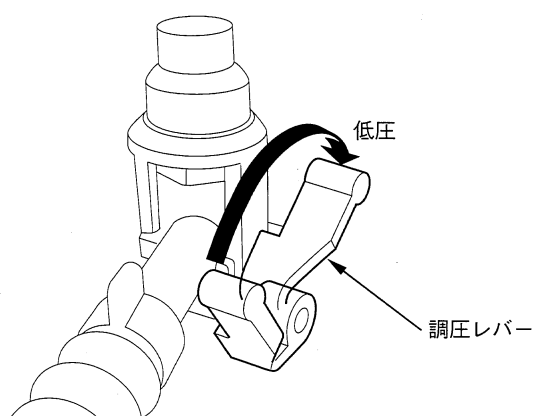
[WJR2225 Jタイプのみ]

4. 噴霧圧力／噴霧量を調整したいとき、調圧ダイヤルを回して圧力を調整します。



[WJR2215/WJR2225 JHタイプのみ]

5. 低圧、小量噴霧を行いたいとき、調圧レバーを**“低圧”**の位置にします。



散布作業

⚠警告

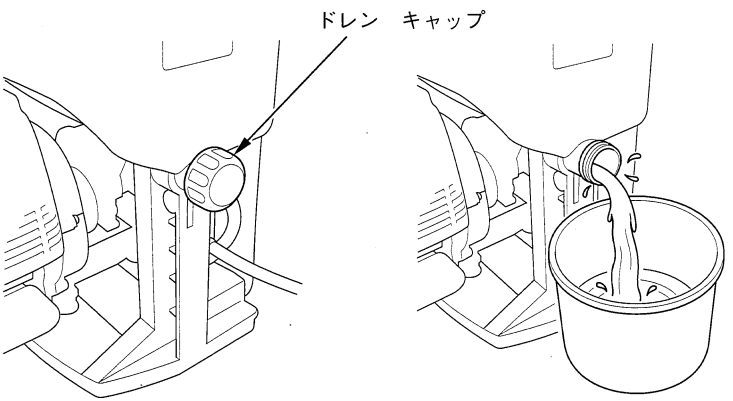
- 薬剤が皮膚についたときは、すぐに石鹸水で洗い、衣服に浸透しているときは、衣服を交換してください。
- 作業後・作業中に少しでも、めまい、頭痛、吐き気、腹痛などを感じたときは、直ちに、医師の診断を受けてください。このとき、使用農薬名と散布作業の内容(作業時間、作業面積、作業方法など)を医師に報告してください。
  早急な手当てを受けないと、重大な薬害事故となります。
- 農薬散布時は、ノズルを人の方向に向けないでください。子供、その他関係者以外の人が、作業する場所に近付いたときには作業を中止してください。
- 散布作業時は風向きを確かめ、体を風上において、薬剤が体にかからないようにします。
  また、風下から風上方向に作業を進め、散布済みの場所で、作物に付着した薬剤が体に触れないようにします。
  薬剤を吸ったり、触れたりすると、健康に悪影響を及ぼします。

取扱いのポイント

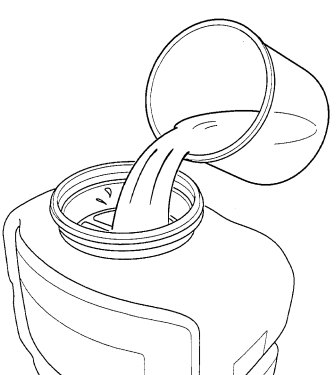
噴霧がとぎれたり、勢いがなくなったり、エンジン回転が急に高くなったりしたときは、薬液タンクが空になっています。ノズル　レバーを離し、エンジン回転調整レバーでエンジンの回転を下げ、エンジン　スイッチを切にし、エンジンを停止して、薬液を補給してください。

使い終わったら

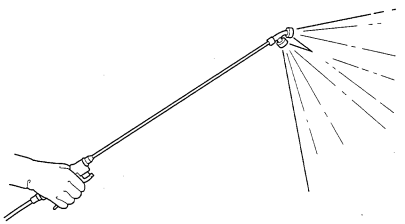
1. ノズル　レバーをはなし、エンジン回転調整レバーでエンジンの回転を徐々に下げ、アイドリングでしばらく冷却運転を行った後、エンジン　スイッチを“切”の位置にします。
2. エンジン冷却後、ドレン　キャップを外し、薬液タンク内に残った薬液を排出します。



3. ドレン　キャップを取付けます。薬液タンク　キャップを外して、タンク内に清水を入れ、洗浄します。



4. エンジンを再始動します。ノズル　レバーを３～４回開閉して、２～３分間噴霧します。洗浄が終わったら、エンジンを停止し、ドレンキャップを外して洗浄水を排出します。



⚠注意

- 作業終了後の洗浄は、必ず行ってください。
  機具を良く洗浄せず、別種の薬剤を使用すると、ポンプやホース内に残っていた前の薬液と混じり合って、薬害を引き起こします。
- タンク内に残った薬液や、洗浄に使った水は、薬害の生じない、自分の管理する非農耕地に捨てます。
  決して川や、池などに流したり、川や池の付近に捨てたりしないでください。川や池の近くに洗浄水を捨てると、水生動植物などに薬害を生じます。

取扱いのポイント

洗浄後、ポンプから噴霧ホースを出し、吐出口から水が出なくなるまで運転して、完全にポンプ内の水を抜いてください。ポンプ内に水分が残っていると、凍結した場合にポンプを破損することがあります。

定期手入れを行いましょう

お買いあげいただきましたホンダ背負式動力噴霧機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

定期点検整備項目

点検項目＼点検時間		作業前点検	初回または10時間運転時	3か月または25時間運転時	6か月または50時間運転時	12か月または100時間運転時
エンジン　オイル	点検／補充	○				
	交換		○		○	
エア　クリーナ	点検	○				
	清掃			○〈注１〉		
冷却フィン	点検				○	
点火プラグ	点検／清掃				○	
燃料フィルタ	点検					○
燃料チューブ	点検	2年毎				
	交換	4年毎〈注２〉				
燃料タンク	清掃					○
各締付け部（ボルト／ナット類）	点検	○				
バルブクリアランス	すきま調整				○〈注２〉	
スロットル　ワイヤ	作動／遊び	○				
クラッチ　ドラム	点検／清掃				○〈注２〉	
Vパッキン(ポンプ)					○〈注２〉	
タンク　フィルタ	点検／清掃	○				
薬液タンク　フィルタ	点検／清掃	○				

〈注１〉　ホコリの多い所で使用した場合、エア　クリーナの清掃は、10時間毎または１日１回行ってください。

〈注２〉　これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

⚠注意
点検・整備は平坦な場所に本機を水平に置き、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップを外してください。

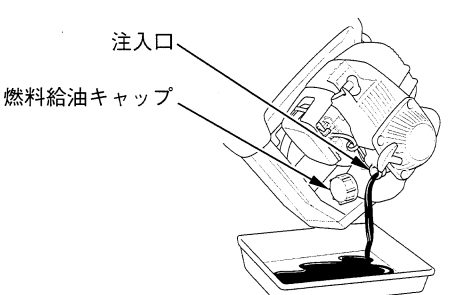
エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

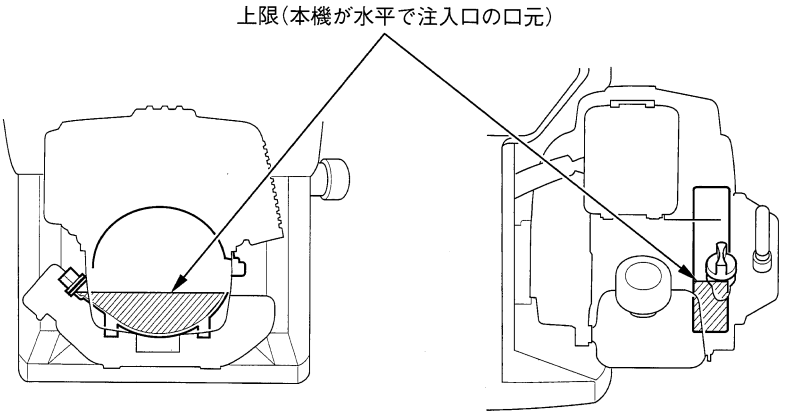
⚠注意
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

《交換時期》
初回：１か月または10時間運転時、以後：６か月または50時間運転毎
《推奨オイル》(４サイクル　ガソリン　エンジン　オイル)
ホンダ純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)
またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE 10W-30オイルをご使用ください。
《規定量》 0.10ℓ

《交換のしかた》
1. 燃料給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. オイル給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、オイルを抜きます。オイルは、容器に受けてください。



3. 本機を水平にし、エンジン　オイルを注入口の口元まで注入します。



4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。

取扱いのポイント

- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適切に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上処理してください。
- オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア　クリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

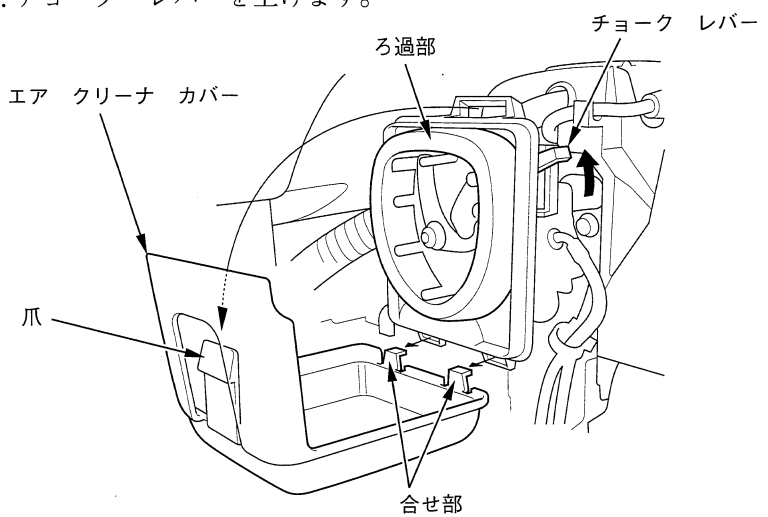
⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》　3か月毎または25時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は1日1回または10時間毎。

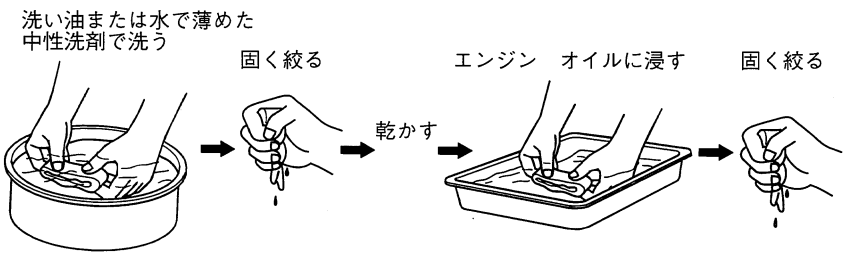
《清掃のしかた》

1. チョーク　レバーを上げます。



2. エア　クリーナ　カバーを取外し、ろ過部(ウレタン)を取外します。
エア　クリーナ　カバーの取外しは、爪を押しながら上部を外した後、下部の合せ部を離して行います。
3. ろ過部を洗い油または水で薄めた中性洗剤でよく洗い、よく絞ってから乾かします。

4. ろ過部をエンジン　オイルに浸した後、固く絞ります。
5. ろ過部、エア　クリーナ　カバーを取付けます。エア　クリーナ　カバーの取付けは、2か所の合せ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。



取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの清掃・調整

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後マフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分に冷えてから行ってください。

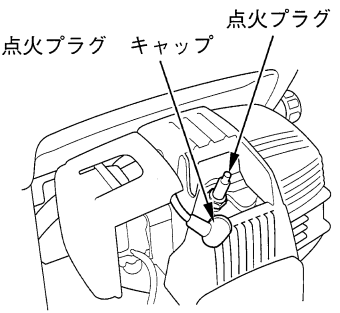
《清掃時期》

6か月毎または50時間運転毎

《清掃のしかた》

1. 点火プラグ　キャップを外し、点火プラグを取外します。
2. プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

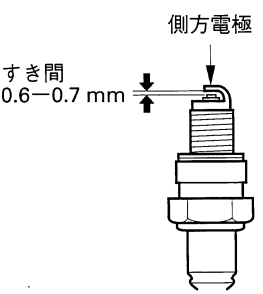
● プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。



《調　整》

4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.6－0.7 mm



《標準プラグ》

C5HSB, CR5HSB (NGK)
U16FS-UB, U16FSR-UB (DENSO)

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外のプラグを使用しないでください。点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締込んでください。
- 点検調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

燃料タンクの清掃

燃料タンク内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

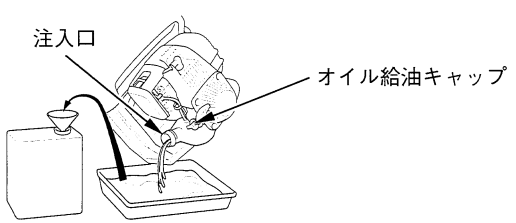
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

《清掃時期》

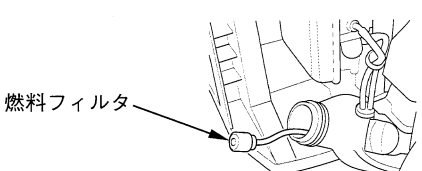
12か月毎または100時間運転毎

《清掃のしかた》

1. オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. 燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、ガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。



3. 燃料フィルタを針金などを使い、注入口から引き出します。



4. 燃料タンク内部を洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取除きます。
5. 燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料給油キャップを確実に締付けます。

燃料フィルタの清掃

燃料フィルタが目詰まりするとエンジン不調の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

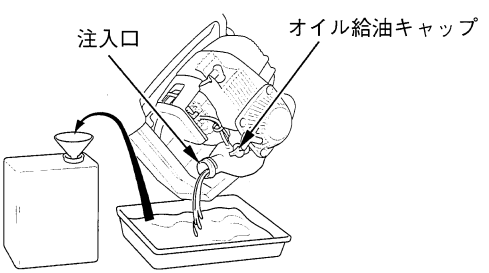
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

《清掃時期》

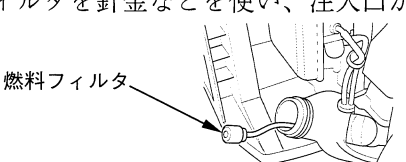
12か月毎または100時間運転毎

《清掃のしかた》

1. オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. 燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、ガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。



3. 燃料フィルタを針金などを使い、注入口から引き出します。



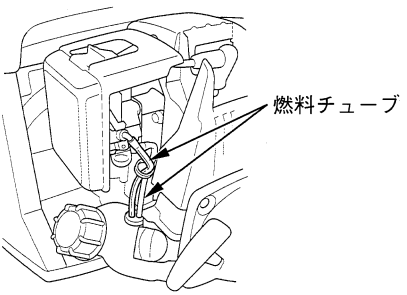
4. 燃料フィルタを洗い油で洗い、燃料フィルタ表面の汚れを落とします。燃料フィルタの汚れが著しい場合は、交換してください。
5. 燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料給油キャップを確実に締付けます。

燃料チューブの点検

《点検時期》　2年毎

《点検のしかた》

燃料チューブに劣化、ひび割れ、燃料漏れがないことを確認します。
異常がある場合は交換が必要です。
お買いあげの販売店で実施してください。

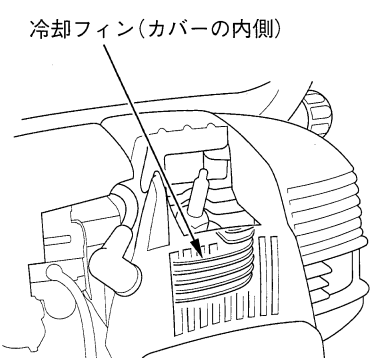


冷却フィンの点検・清掃

《点検時期》　6か月毎又は50時間運転毎

《点検のしかた》

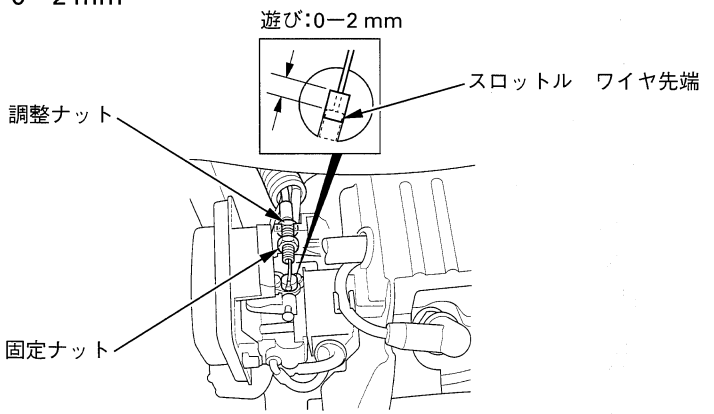
冷却フィンを目視で点検し、草、芝、泥などによる詰まりがないことを確認します。
詰まりがある場合は清掃してください。清掃はお買いあげの販売店にご相談ください。



スロットル　ワイヤの調整

スロットル　ワイヤの遊びを正しく調整してください。

1. チョーク　レバーを上げ、エア　クリーナ　カバーを取外します。
   エア　クリーナ　カバーの取外しは、爪を押しながら上部を外した後、下部の合せ部を離して行います。
2. エンジン回転調整レバーを"低"の位置に合わせます。
3. スロットル　ワイヤの固定ナットをゆるめます。
4. スロットル　ワイヤ先端の遊びを確認しながら、調整ナットを回して遊びを規定値にします。
   遊び：0－2 mm



5. エア　クリーナ　カバーを取付けます。
   調整後、エンジン回転調整レバーがスムーズに作動するか、引っかかりはないか確認してください。異常がある場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

長期間使用しないときの手入れ

★長時間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠警告

手入れを行う場合は、平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップを外してください。

⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体マフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

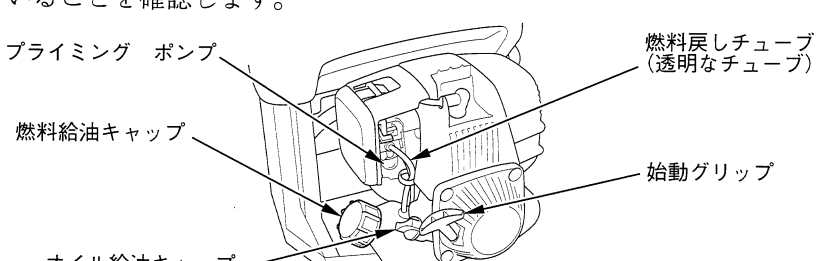
1本機の表面から、薬剤やゴミなどの付着物を取除いてください。
2燃料タンク、キャブレータ内のガソリンを抜いてください。

⚠警告

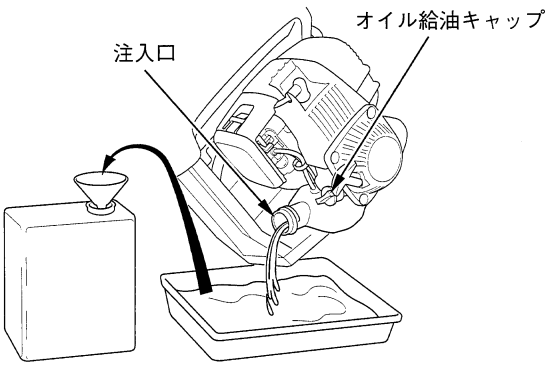
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

《抜きかた》

1. エンジン　オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。



2. 燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、ガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。



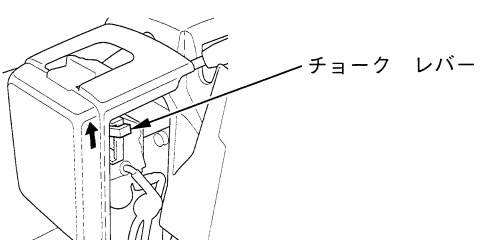
3. 燃料給油キャップを取付けます。
4. 燃料戻しチューブ(透明なチューブ)内のガソリンがなくなるまで、プライミング　ポンプを押します。
5. 再度、燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、ガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。
6. 燃料給油キャップを確実に締付けます。

3 エンジン　オイルを交換してください。(交換方法は36頁参照)

4 エア　クリーナ(空気清浄器)を清掃してください。(清掃方法は38頁参照)

5 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。

6 チョーク　レバーを上げ、**始動**の位置にしてください。



7 保管は、子供や家畜の出入りできない、鍵のかかる場所にしてください。また、火の気のない、湿気やホコリの少ない場所を選んでシート等をかけて保管してください。

故障のときは

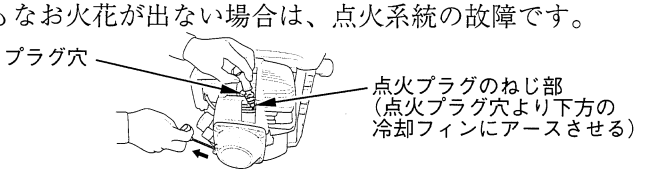
まずご自分で次の点検を行い、その上でなお異常のあるときには、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は取扱説明書通りですか?
2. ガソリンはありますか?
3. 点火プラグ　キャップは確実に取付けられていますか?
4. 点火プラグは汚れていませんか、また火花は出ていますか?

点火プラグの火花確認手順

1. 点火プラグから点火プラグ　キャップを取外します。
2. 点火プラグをエンジンから取外し、点火プラグ　キャップに取付けます。
3. 点火プラグ穴から離れた場所で、点火プラグのネジ部をエンジン本体に確実にアースさせます。(感電を避けるため点火プラグ　キャップ以外には触れないでください。)
4. エンジン　スイッチを始動の位置にして始動グリップを引き、そのとき点火プラグの電極に火花が出るか確認してください。
   - ●火花が出ないときは、新しいプラグと交換してください。プラグを交換してもなお火花が出ない場合は、点火系統の故障です。



⚠警告

この点検をする前に、点火プラグ穴周辺やその他のところにガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、または布きれなどで完全に拭きとってから行ってください。

⚠注意

点火プラグはプラグ穴から離した場所で確実にアースし、プラグキャップ以外には触れないで点検を行ってください。感電のおそれがあります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・燃料がこぼれた場合は、点火プラグの火花確認やエンジンを始動する前にふき取り、良く乾かしてから行ってください。
・ガソリンに引火するおそれがあるので点火プラグ穴の近くで火花確認をしないでください。また点火プラグ穴に手や顔を近づけないでください。

●火花が出ないときは、新しい点火プラグと交換するか、お買いあげ販売店にお申しつけください。

ポンプが吸水しないときは次の点を確認しましょう。

●ノズル、噴管、調圧ダイヤル(WJR2225 Jタイプのみ)、ノズル　レバー、噴霧ホースの接続は確実ですか。→16頁
●エンジンの回転が低すぎませんか。→30頁
●薬液タンク　フィルタがつまっていませんか。→22頁

圧力が上がらない

●ノズルのつまり、ノズルの穴の損傷はありませんか。
●調圧レバー(WJR2215/WJR2225 JHタイプのみ)は正しい位置にセットされていますか。→15頁

主要諸元

機種名		WJR2210		WJR2215	WJR2225
タイプ		J	JH	J	J
全長×全幅×全高		365 × 410 × 560 mm		365 × 410 × 560 mm	365 × 420 × 595 mm
乾燥重量		7.1 kg		8.1 kg	8.7 kg
動力噴霧機	薬剤タンク容量	15 ℓ		15 ℓ	22 ℓ
	ポンプ形式	カスケード　ポンプ		水平対向プランジャー	水平対向プランジャー
	ノズル噴霧量	1.0—1.5 ℓ／分		1.7—2.0 ℓ／分	2.0—2.6 ℓ／分
	噴霧圧力	0.98 MPa (10 kgf/cm^2)		1.47 MPa (15 kgf/cm^2)	0—2.45 MPa (0—25 kgf/cm^2)
	付属ノズル	1 頭口		2 頭口	2 頭口
	噴霧ホース	Ø6.5 mm × 1.2 m		Ø8.5 mm × 1.2 m	Ø8.5 mm × 1.2 m
	遠心クラッチ	有		有	有
	噴霧圧力調整	無		無	手元
エンジン	名称	GX22			
	形式	強制空冷 4 ストローク単気筒ガソリンOHV			
	総排気量	22 cm^3			
	最大出力	0.74 kW (1.0 PS)/7,000 rpm			
	始動方式	リコイル式（メカニカルデコンプ装備）			
	点火方式	トランジスタ　マグネト点火			
	燃料タンク容量	0.45 ℓ			
	オイル容量	0.10 ℓ			
	点火プラグ	C5HSB, CR5HSB (NGK) U16FS-UB, U16FSR-UB (DENSO)			

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

主要諸元

機種名		WJR2215K1	WJR2225K1	
タイプ		J	J	JH
全長×全幅×全高		365 × 410 × 560 mm	365 × 420 × 595 mm	365 × 410 × 560 mm
乾燥重量		8.4 kg	9.0 kg	8.4 kg
動力噴霧機	薬剤タンク容量	15 ℓ	22 ℓ	15 ℓ
	ポンプ形式	水平対向プランジャー	水平対向プランジャー	水平対向プランジャー
	ノズル噴霧量	1.0—2.0 ℓ／分	0—2.6 ℓ／分	1.0—2.6 ℓ／分
	噴霧圧力	0.6—1.5 MPa (6—15 kgf/cm^2)	0—2.5 MPa (0—25 kgf/cm^2)	0.6—2.5 MPa (6—25 kgf/cm^2)
	付属ノズル	2 頭口	2 頭口	2 頭口
	噴霧ホース	Ø8.5 mm × 1.2 m	Ø8.5 mm × 1.2 m	Ø8.5 mm × 1.2 m
	遠心クラッチ	有	有	有
	噴霧圧力調整	ポンプ側レバー	手元	ポンプ側レバー
エンジン	名称	GX22		
	形式	強制空冷 4 ストローク単気筒ガソリンOHV		
	総排気量	22 cm^3		
	最大出力	0.74 kW (1.0 PS)/7,000 rpm		
	始動方式	リコイル式（メカニカルデコンプ装備）		
	点火方式	トランジスタ　マグネト点火		
	燃料タンク容量	0.45 ℓ		
	オイル容量	0.10 ℓ		
	点火プラグ	CR5HSB (NGK)，U16FSR-UB (DENSO)		

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

メ　モ

メ　モ